

# ぐらし・なんでも相談

 シリーズ  
No.25

## 「多重債務問題」



佐藤 豊 弁護士

1月から、毎月第2土曜日の弁護士・司法書士・社会保険労務士による専門家相談日に合わせて、新聞や情報紙のお知らせ欄を利用して「ぐらし・なんでも相談専門家相談日」のPRに努めています。その効果で、専門家相談日には毎回多くの相談が寄せられています。4月は1日46件と過去最高を数えています。

今号は当相談ダイヤル主任相談員の佐藤豊弁護士（長野県弁護士会元会長・法テラス長野前所長）の相談事例から多重債務問題・ブラックリストについてご紹介します。



### 【事例①】

《ブラックリストの履歴は消えないのか》

店員に勧められショッピングカードを申し込んだところ、審査に通らなかったとの連絡が来た。

実は、11年前サラ金数社からの借金310万円が返せず弁護士に依頼をして自己破産した。しかし、その後は真面目に生活をしてきたので借金をしたこともないし、年収も相応にある。ブラックリストの履歴はなぜ消えていないのか。信用情報を確認する方法はないか。

### 【回答】

金融・信用分野の業者は、多重債務防止の制度として、業界内に個人信用情報機関を設け、延滞等の事故情報を登録し相互に情報交換して利用している。

カードの申込に対し審査を通らなかった理由としてはブラックリストに載っている可能性が大である。

事故情報は一般的には5年間程度登録されるが、誤った内容が登録されている可能性がある場合は、カード会社が加盟する情報機関を確認した上で、自分の信用情報の開示請求をして、誤った内容は訂正を請求

することになる。

### 「ブラックリスト」

#### ワンポイント

○ブラックリスト 金融機関の借入金や、クレジットカード、ショッピングローン、キャッシングなどの支払いや返済を一定の期間（通常3ヶ月）延滞した状態を「事故」または「延滞」といい、個人信用情報に「事故情報（延滞情報）」が登録される。

この事故情報を、通称、ブラック情報といい、ブラック情報が登録された状態を「ブラックリストに載る」と言っている。

○審査 カード会社は（株）シーアイシー（CIC）、（株）日本信用情報機構（JICC）、全国銀行個人信用情報センター（KSC）などの信用情報機関の会員になっており、申込者の信用情報（いつこの会社でいくら借りて・どうだったか）や過去のクレジットカード等の申込履歴などを照会の上審査する。事故情報に登録されているカード発行や借入はできない。

○信用情報の開示請求 個人の信用情報は本人の請求により開示される。個人信用情報の問合せ先はカードの種類によって左記に電話して手続を。開示相談コーナーに出向く他、郵送で申込み・返信郵便で受け取る。手数料は申込先によって、0（無料）～1000円に返信用切手代。

●クレジット系は CIC（0120-810144）

●消費者金融系は JICC（0120-141448）

●銀行系は KSC（0120-154040）

### 【事例②】

《過払い分を戻してもらう方法は？》

サラ金の過払い請求とはどんなものか。

サラ金から借入して7～8年前に一度完済したが、その後また借りて現在80万円の残金がある。

返し終わったものでも、払い過ぎた分は戻ると聞いたが、どのように調べるのか。

### 【回答】

過払い請求とは、業者の貸付金利を利息制限法の低い金利で計算し直し、払い過ぎた分を返還請求するものである。計算のためには、業者から借入及び返済の取引履歴を取寄せる。

高い利息で完済しているということは過払い金があると思われる。その返還又は現在の借入分の減額ができる。但し、完済してから10年を経過すると、時効により返還請求はできなくなる。

多重債務については、弁護士会や県の消費生活センターで無料相談も行っており、弁護士等に依頼しても1件ならば費用は2万～3万円位の負担でできる（過払い分が返還されたら金額に応じて報酬を支払うことになる）。

### 「サラ金の過払い分」

#### ワンポイント

○過払い金 かつてサラ金から借入して返済し終わった人でも、返済し終わったときから10年が経過していなければ、過去に払い過ぎた（グレーゾーン）金利分（過払い金）を取り戻すことができる。

10年以内に、消費者金融や信販会社のキャッシングを利用していた人、商工ローンから高利で融資を受けていた中小企業の経営者などは、思わぬ金額が戻る可能性もあるので一度、弁護士など専門家に相談を。

### 【事例③】

《連帯保証人で多額の債務を負うことに。》

昨年会社が倒産。役員をやっており借入の連帯保証人になっている。

8,000万円もあり、現在、月々わずか返済しているが、とても返せそうもない。

破産も考えたが、不利益はどんなことがあるのか。

生命保険に加入しているが、破産せずに自分が死んだ場合は、どうなるか。

### 【回答】

破産の不利益としては、債務を清算できる代わりに財産も全て失うこと、経済的な信用を失うことの外は、一定の資格等に影響があるだけである。生命保険も、解約したときに戻る金があれば財産になるので、相当額になる場合は解約せざるを得なくなることも考えられる。

債務を減額できるか交渉し、返済不可能な額が残るならば、失う財産も考慮の上で破産を考えるべき。

破産せずに死亡した場合、妻子は相続放棄をすれば返済の責任はない。

なお、生命保険の受取人が妻に指定されている場合、相続放棄をしても死亡保険金は受取れる。

連帯保証人をしていた友人の自動車ローンの返済が延滞となって、残高わずか10万円のこと、連帯保証人がブラックリストに載ってしまったケースがあります。

連帯保証人宛に債務履行請求書が来たので驚いて友人に連絡をとったら、「5万円づつ2ヶ月で返済する」と言うので完済されたとはかり思っていたそうです。

連帯保証人とは、「主たる債務者と連帯して債務を負担することを約束した保証人」ですから、通常の保証人が有する催告の抗弁権（民法452条）と検索の抗弁権（民法453条）がなく、主たる債務者とまったく同じ義務を負う立場です。

この場合、連帯保証人とすれば、とりえず残金10万円を返済し、その後友人から返済を受ければ（仮に返済されなくても）、ブラックリストに載ったことで自分が住宅ローンの借入ができない最悪の状況は回避できたと思われまます。請求書が届いた時点で何れかの相談窓口を利用していただくと悔やまれます。

当相談ダイヤルを身近な相談窓口の一つとしてご利用いただければ幸いです。

毎月第2土曜日は、弁護士・司法書士・特定社会保険労務士など専門家相談員による相談日です。

ぐらし・なんでも相談はとダイヤル  
0120-1339-60029